

中学生が小学生にサイバー教室

新井中学校（保土ヶ谷区）
サイバー防犯ボランティア

神奈川県内では約 800 人（2021 年 4 月現在）のサイバー防犯ボランティア（本誌 P18 参照）が活動しています。社会人、少年補導員、大学生、高校生、中学生のボランティアが、活動の一つとして、小・中学生を対象にサイバー教室を開いています。

今日は、新井中学校のサイバー防犯ボランティアの生徒が、新井小学校でサイバー教室を開くというので、取材させていただきました。



2021 年 12 月 21 日（火）5 校時、新井小学校の体育館に 6 年生が集まり「サイバー教室」が開かれました。そこには警察の方たちに交じって、2 人の中学生がいました。新井中学校サイバー防犯ボランティアの生徒です。

「サイバー教室」が始まりました。ボランティアの生徒が、スクリーンに映像を映しながら話し始めます。「サイバー犯罪とは、コンピュータやインターネットを悪用する犯罪のことです」「誰もが被害者になることがあるだけでなく、間違っただけで犯罪者になることもあります」

●インターネットを使うときの大切な力

考える力

がまんする力

思いやる力

悲しませない力

■新井中学校がサイバー防犯ボランティアを始めた経緯を、本田三千年主幹教諭（生徒指導専任）に聞きました。

「2 年前になります。地域コーディネーターの方からサイバー防犯ボランティアのお話を聞き、生徒会の生徒が『やってみたい』ということで始めました。サイバー教室は、校内の生徒向けに行っていましたが、今年、地元の警察署から『新井小学校でサイバー教室をしてもらえないか』と依頼を受けて、今年のボランティアの生徒に聞いたところ『やりたい』というので引き受けました」

サイバー犯罪、誰もが被害者にも犯罪者にもなる

■新井小学校でサイバー教室を開いた経緯を、坂本久教諭(児童支援専任)に聞きました。

「『SNSを介したトラブルが増えている』とよく報道されているので、本校でも効果的な防犯教室を開きたいと思っていました。地元の警察の方に相談したところ、新井中学校のサイバー防犯ボランティアを紹介してくれました」

●言葉の行き違いからトラブルにつながる場合があります。相手がどう思うか考えてから送信しましょう。

A子「遠足のお菓子を買いにいこ」
B子「どこに行く？」C子「ららぼは？」
D子「わたしも行く！」B子「なんでいくの？」
D子「えっ？だめ？」

B子は「どうやって行くの？」と交通手段を聞いたつもりでしたが、D子は「あなたは行ってはいけない」と仲間外れにされたと感じてしまいました。文字だけでは、顔が見えないし、声が聞こえないので、伝わらないことがあります。



サイバー教室も半ばを過ぎました。小学生が飽きないように、担任の先生たちが出演するドラマが映し出されました。タイトルは「炎上」。動画投稿によるトラブルを演じています。小学生は、寝てなんか



■サイバー教室が終わり、小学生に感想を聞きました。

「年が近いし、卒業生なので親しみやすいし、警察の人が話されるより話がすっと入ってきました。それに、二人を見ていて、私も人に大切な事を教えられる人になりたいなと思いました」

■サイバー防犯ボランティアの生徒に、サイバー教室を引き受けた理由を聞きました。

「ネットでの誹謗中傷などで自殺してしまう人たちがいます。僕は、そんなことで死んでほしくないの、小学生のうちから考えてほしくて、今日のサイバー教室を引き受けました」

「今年になって1人1台iPadが配られました。使い方が大事になってくると思うので引き受けました」

どこまでもさわやかな中学生でした。

「年が近いし、親しみやすい」
(小学生)

サイバー防犯ボランティア活動については、
神奈川県警察ホームページをご覧ください。

https://www.police.pref.kanagawa.jp/kurashi/cyber_hanzai/mesd7027.html

スマホで
アクセス



神奈川県警察

検索

2021年12月21日

横浜市立新井小学校(保土ヶ谷区)にて

取材/町田 清

(横浜市教育文化研究所所員)

写真/森 直実

(横浜市立万騎が原中学校講師)